



氷広瀬街道が今も面影を残す
氷桜の名所「緑山苑(公園)」に吉晴桜も咲く
氷歩兵第三連隊駐屯地の名残を残す
氷八十八か所弘法大師地蔵めぐりもできる

まち歩きマップ

古志原のあゆみ

古志原は江戸時代の初めごろ、松江藩による大根島などからの集団移住によって始まった。

移住者たちは荒地の開墾に血のにじむような苦労を重ね、豊かな農地を広げていった。藩は古志原繁栄のために牛馬市を開いたり、芝居興行をさせたが、やがて通丁場(射撃訓練場)を設けたため、せっかく開拓した農地がかなり取り上ってしまった。

その後、古志原に藩の人参方が設けられ、朝鮮人参栽培の根拠地となり、藩財政を大いにうるおしたと言われている。

明治になると県市あげて誘致した歩兵第63連隊用地に指定された。農地の大半が兵舎や練兵場に買収され、農地はますます少なくなっていた。やがて終戦を迎え、兵営あとに占領軍が進駐してきた。

激動の400年を生きてきた古志原だが、戦後は急速に宅地化が進み、市内有数の住宅密集地となった。兵舎の広大な跡地には県立松江工業高校が移設されている。



開地元祖の碑

古志原開地元祖の碑

山代神社の境内に建つ石碑。古志原に移住し土地を開いた人たちの名前が刻まれている。昭和9年(1934)に古志原が松江市に合併したときに建てられた。

冒頭に「寛文8年(1688)松江から移住 鍛冶屋 榎小路のあらんがきり」とあり、続いて大根島から移住してきた人たちの名前が刻まれている。

緑山苑(旧陸軍墓地)

緑山苑(緑山公園)は、歩兵第63連隊の墓地跡で、満州事変、支那事変、第2次大戦の戦死者の慰霊の場所である。戦後、墓はすべて撤去され、慰霊塔にまとめて供養されており、1年中参拝者が絶えない。

その後、多くの桜やツツジなどが植えられた公園となり、桜の名所として知られるようになった。春には多くの花見客でにぎわう。

樹齢400年を超える桜もあり、堀尾吉晴親子が松江開府にあたって通り、この桜を眺めたであろうと考えられ、「吉晴桜」と名付けた銘木もある。

工業高校前から緑山苑に続く道は、旧広瀬街道の一部で、蔵徳神・弘法大師地蔵などの街道の名残を見ながら登る。つづら折りの鍛冶屋坂上下には、賽の神、六十六部回国塔など見どころが多い。

江戸時代に薪を売りにこの坂を行き来した庄兵衛は「重くとも軽めてあがれ鍛冶屋坂 榎小路のあらんがきり」という歌を詠んでいる。白濁榎小路で酒屋の酒を絞る袋の洗い汁を飲むのを楽しみに坂を越えたという。



緑山苑(公園)



緑山苑参道



慰霊塔

山代神社

—神名樋山から降りてきた社—

祭神は、山代日子の命(大国主命の御子)で、古志原の氏神である。もともとは大庭山代町の茶臼山(神名樋山)中腹にあった社を、延宝8年(1680)松江藩の許可を得て、現地に移築したことから山代神社と言われている。境内には、古志原地内にあった松江藩人参御会所(人参取締役所)から移された幸神社(祭神・猿田彦命)など六社が祀られている。

そのうち比須神社は、古志原で牛馬市が開かれていたころの商売の繁栄を願ったものである。また、江戸時代に大根島から移住した古志原の礎を築いた人たちの名前を刻んだ「古志原開地元祖之碑」があり、古志原の歴史をうかがうことができる。

祭りは、祈年祭、夏祭り、例大祭、収穫祭・荒神祭である。近年、夏祭り(輪越祭)の参拝者が最も多く、参道には屋台が並び、地元民謡グループの奉納演奏、なども行われ、昔のにぎわいを取り戻しつつある。



山代神社参道



恵比須社



奉納謡額



幸神社

歩兵第63連隊跡

明治41年、懸命の誘致運動が功を奏して、陸軍歩兵第63連隊が入営、以来古志原は駐屯地として、地元はもとより松江市の経済や交通などの発展に大きな影響を及ぼした。

終戦後の一時期、アメリカ軍などの進駐軍が駐留した。兵舎があったのは現在の工業高校で、校地内には「歩兵第63連隊跡」「至誠」と刻まれた石碑や屋内練兵場の壁の一部(レンガ造り)、昭和天皇が皇太子時代の御手植えの松などが残されている。

敷地から掘り出された飛行機のプロペラは、古志原小学校に保存している。

関連施設としては、練兵場(現在の富原付近)、射撃場(現湖東中学校・公営住宅)、陸軍病院(現厚生センター)、陸軍墓地(現緑山苑)がある。

現在の国道432号は、軍用道路として舗装整備されたもので、当時から古志原はバス交通などの便が良い地であった。



「歩兵第63連隊跡」(手前)「至誠」碑(右奥)と赤レンガ兵舎(屋内練兵場)の入口



旧正門石柱



皇太子御手植えの松



アクセス

◆国道9号バイパス(松江道路)
松江中央または松江東ランプで降りる。側道を通って国道432号に入る。

◆JR松江駅下車 路線バス
市営バス「東上乃木」「古志原郵便局前」「古志原」下車 循環線(内回り 外回り)
古志原、合同庁舎行きがある。

一畑バス「東上乃木」「古志原郵便局前」「古志原」下車 八雲方面行きがある。

平成25年3月発行

◆編集発行◆
古志原地区まち歩きプロジェクト委員会

◆お問い合わせ◆

松江市古志原公民館

〒690-0012

松江市古志原4丁目6-30 TEL 0852-26-4436

古志原の妖怪伝説

江戸時代の古志原村にはいろんな妖怪や怪物が住んでいたで、こわがって村を逃げ出す人たちが多かった。このため山代神社に総荒神をまつって村を守ろうとしたそうです。

サツキトギ

鉄砲通丁場(おちょうば)南西のあたり、いまの富原の南から上口のあたりでは、夜になると必ず「シャッシャン シャッシャン」と、まるでサツキ(小豆)を磨くような音が聞こえました。人々は「サツキトギ」と呼んでこわがり、きつとタヌキのしわざだろうとわきましていました。

アラゲダワ

「観音さん」(光泉寺)の下あたりは、アラゲダワと呼ばれていました。ここを通ると、かならず荒い毛のはえた手がニュッと突きだされたり、荒い毛のはえた丸いものが下駄(ばくり)の歯にはさまって人を転ばせたそうです。このためこのあたりを荒毛峠(あらげだわ)と呼んで、こわがったそうです。

小人の餅つき

鍛冶屋坂のあたりで正月の餅つきをはじめると、雛人形(ごさん)ほどの三人のかわいい小人があらわれて、舞い踊ったといいます。

ヘッソヤ

下組のあたりでは、正月の餅つきの杵の音と「ヤイトヤ」というかけ声にこたえて、「ヘッソヤ」という声がどこから聞こえてきます。このため太鼓をたたいて追いはいました。

腰折れ

いまの公民館のあたりを夜歩くと、向こうからものがやってきます。その人をじっと見ると、身の丈がどんどん大きくなり、腰のあたりで真っ二つに折れ、見た人をはきだしてまったそうです。

狼場

鼻曲がりのあたりには狼が出没するので狼場とも呼ばれ、恐れられていました。このため賽の神をまつり、狼が村に入らないよう守護神にしていた。

(「古志原郷土史談」より)

A 歴史探索コース (約5 km)

①平塚運一画伯顕彰碑

0.5km

②光泉寺観音堂

0.5km

③山代神社

1.2km

④古志池

1.6km

⑤六十六部回国塔・膳了地蔵

0.4km

⑥鍛冶屋坂・緑山苑(公園)



平塚運一碑



六十六部回国塔



神社本殿



光泉寺観音堂



古志池

平塚運一画伯顕彰碑・人参方跡

工業高校正門前に一時住んでいた版画家平塚運一画伯の顕彰碑がある。国道を挟んだ東側あたりが、松江藩の財政を支えた人参役所・人参方跡である。

光泉寺観音堂

古志原文番前の国道432号を横切り古い石段を登ると、その上が光泉寺観音堂である。前庭には墓のほかに六十六部回国塔、弘法大師地蔵、六地蔵などが並んでいる。

山代神社

古志原開拓の歩みとともに歩んだ古志原の氏神。幸神社、荒神、古志原開地元祖の碑などがある。歌や踊りの芸能を現在も夏祭り(輪越祭)に奉納している。

古志池(古志堤)

堀尾吉晴の時代に、もともと3つの池がつながれて大きくされたようである。松江バイパス工事でほぼ半分以上に縮小された。

六十六部回国塔・膳了地蔵

山梨県の国信僧膳了がこの地で倒れたのを弔い地蔵を建て信仰した。今でも掃除をし花を供えて大切にしている。

鍛冶屋坂・緑山苑(公園)(旧63連隊墓地跡)

緑山苑に登る坂道は次第に急になり、つづら折りになるあたりの鍛冶屋坂を登りきると緑山苑(公園)である。開府のころまで主要街道「氷瀬街道」であった面影を色濃く残す。西に向かう根拠道を下ると、雑賀町売豆紀神社に至る。



膳了地蔵



鍛冶屋坂

B 弘法大師地蔵めぐり(約4 km)

東西コース

①東上乃木バス停

0.9km

②緑山苑(公園)入口

1.5km

③町民会館

0.4km

④知足庵

1.2km

⑤古志原バス停



弘法大師地蔵

明治2年(1869)ごろ古志原に野ネズミの被害が多く、それを防ぐため88体の来待石造りの石像を置いたといわれる。旧古志原村は120世帯程度だったところに、88体置かれた。現在も大切に保存され、飾りや花を供えて大切にしている。

現在、83体が確認されており、個人所有地に安置されており、許可なく拝めないものもある。



C 弘法大師地蔵めぐり(約4.5 km)

南北コース

①古志原バス停

0.5km

②光泉寺 観音堂

1.5km

③鼻曲方面

1.2km

④知足庵

1.2km

⑤古志原バス停

光泉寺観音堂

江戸時代、津田から移された観音堂がある。西側坂の上は墓地。前庭では、以前は盆踊りも行った。

知足庵

庵があり、場所に、仏像のほか弘法大師地蔵などが安置されている。



D 歩兵第63連隊跡めぐり(約4.5 km)

①松江工業高校

0.5km

②練兵場跡(富原)

1.2km

③緑山苑(公園)

1.5km

④厚生センター

1.4km

⑤古志原小学校

松江工業高校(許可を得て見学すること)

連隊本部や兵舎など主要な建物があった場所で、その名残が残されている。赤レンガ兵舎の一部「至誠」石碑「歩兵第63連隊跡」の石碑 連隊正門の石柱 昭和天皇皇太子時代の御手植えの松などが残されている。

練兵場跡(富原)

富原一帯は練兵場の跡で、演習用としての建物は、1軒だけ残され、民家として現在も使われている。射撃場であった湖東中学校方面につながる。

緑山苑(公園)

工業高校正門から北へ向かって坂道を上ると、頂上が緑山苑(公園)である。多くの戦死者の祀られた慰霊塔、支那事変の慰霊塔などがある。公園の周囲には自然があふれ、春には園内いっぱい桜やツツジの花が楽しめる。小さな遊具の置かれた児童公園もある。

厚生センター(陸軍病院跡)

陸軍病院であった地は厚生センター(高齢者障害者福祉施設)となっている。

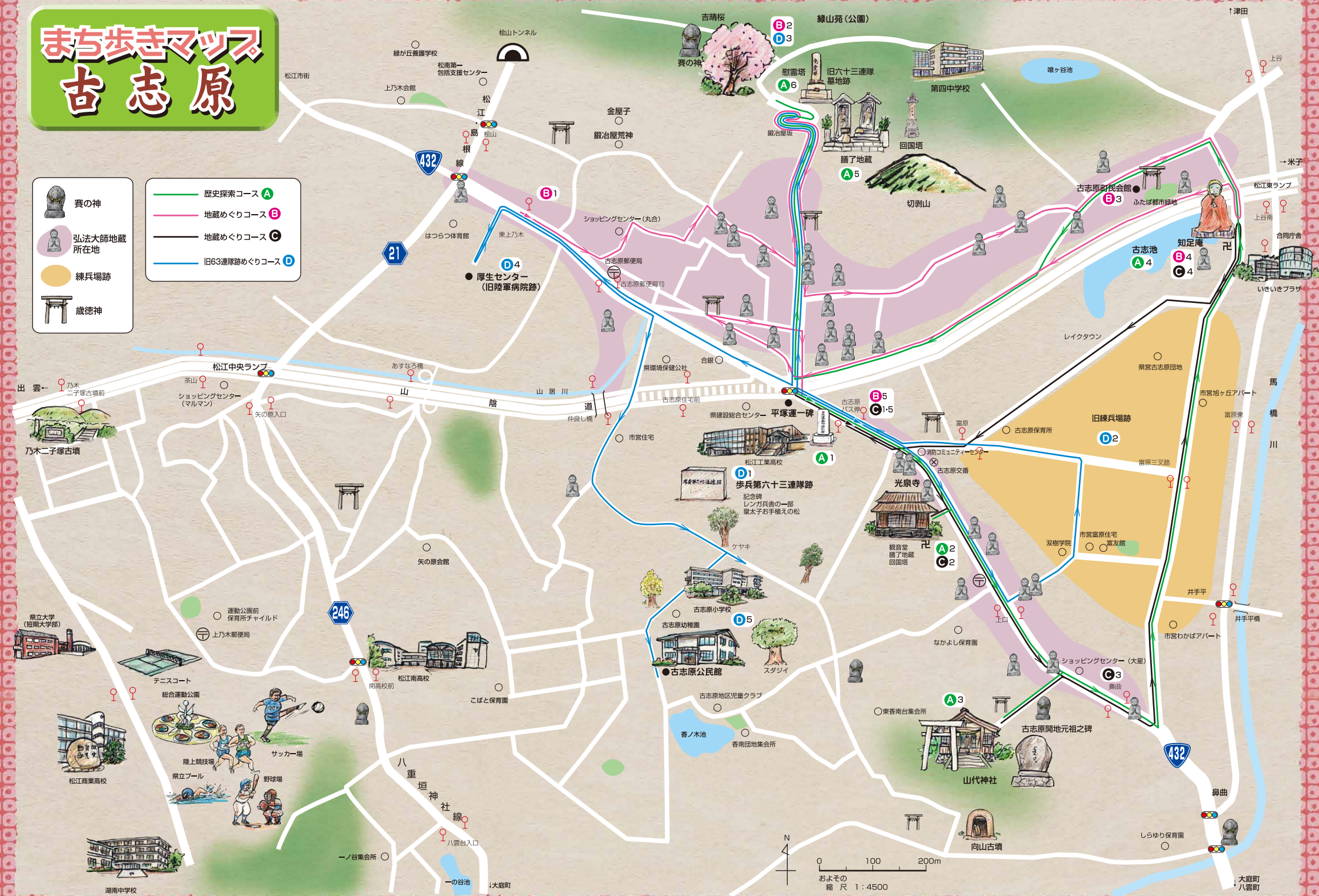
古志原小学校(許可を得て見学すること)

藩政時代の弾丸、旧軍用機のプロペラ、練兵場の写真などがある。明治・大正・昭和のころの民具が集められている。

まち歩きマップ 古志原



- 歴史探索コース **A**
- 地蔵めぐりコース **B**
- 地蔵めぐりコース **C**
- 旧63連隊跡めぐりコース **D**



0 100 200m
およその
縮尺 1:4500

大庭町
八雲町